

市民のための 横浜市政を進める会 NEWS Vol.27

発行：市民のための横浜市政を進める会 080-5174-1471



山中竹春市長とともに、もっと「ここで暮らして良かった」 と思えるヨコハマをつくりあげましょう。 ～横浜市長選挙の開票結果について～

2025年8月4日 市民のための横浜市政を進める会・世話人会



当確の報道後に選挙事務所で花束を贈られる山中氏

6人の候補者の争いとなった横浜市長選挙は、8月3日、投開票され、市民のための横浜市政を進める会（以下「市民の会」）も支持する山中竹春現市長が、663,876票（得票率52%）を獲得し、当選しました。

「市民の会」は、2021年の市長選挙で誕生した山中市政が、カジノ誘致撤回やコロナ禍における市民のいのちを守る対策の推進、「3つのゼロ」をはじめ、子育て支援や高齢者施策、災害対策など市民の暮らしと福祉を拡充する施策を誠実に実行してきた実績を評価し、山中市政の継続を選択して一票を投じていただいた有権者の皆様に感謝を申し上げます。また、参議院選挙から連続し、激しい猛暑の中で山中竹春現市長の当選に向けて昼夜を分かたずご奮闘いただいた各区・団体関係者の皆様に敬意を表し、深く感謝を申し上げます。

今回の市長選挙は、2021年の一部経済界を含む「市民と野党の共同」とは、大きく異なる「陣形」での選挙となりました。故に「市民の会」に加わる各区・団体関係者からも戸惑いや不安、懸念の声が少なからず出されたのも事実です。しかし、山中竹春現市長は、「オール横浜」でより良い横浜をつくりたいと、政党、団体を問わず「政策協定」等の締結は行わず、1期目と同様に、市民の声を基礎に議会とも真摯な議論を重ね施策を具体化する

として、市民本位の姿勢を表明しています。同時に「市民の会」との関係も尊重する姿勢を明確にしています。それは、「市民の会」としての市長選挙の方針を論議する2回の会議に、公務の合間をぬって自ら足を運び、加えて、「市民の会」の「市政運営と政策の基本に関する要望書」を自ら受け取り、「いずれも2期目に実行したい施策」との受け止めを示したことに表れていると言えます。

選挙戦で掲げた2期目の公約には、「医療費無償化を18歳まで引き上げ」「地域交通の確保」「災害に強いまち」「特養入所待機期間の大幅短縮をはじめ高齢者を守るまち」「65歳以上のがん検診無料に」などが盛り込まれ、「市民の会」の政策要望の内容が少なからず反映していると評価できるものです。

「市民の会」は、依然として課題が残っていると考える住民自治の拡充をはじめ、真に市民本位の市政を発展させるために、2期目のスタートを切る山中市政を支えるとともに、指摘すべきは指摘する立場を堅持します。山中市長を支える「陣形」は異なっても、山中市政の誕生にあたって強調した「市民の運動と自治の力」の重要性は、いさかも変わりません。引き続き、山中市長とともに誰もがいきいきと暮らし、働き、学び、育つ、素晴らしいまちヨコハマを、「もっと、ここで暮らして良かった」と思えるヨコハマをがいっしょにつくりあげましょう。

選挙結果

候補者名	得票数	得票率
山中竹春	663,876	52.00
田中康夫	264,740	20.74
福山あつし	148,236	11.61
高橋のりみ	115,939	9.08
斉藤直明	50,454	3.95
小山正武	33,512	2.62